

## エゾシカワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 1. 令和 5 年度エゾシカ WG の開催概要

- ・第 1 回会議 令和 5 年 6 月 19 日（月）斜里町産業会館

### 2. 主な議事内容

新たに 2 名の委員を WG にお迎えしたほか、令和 5 年度の実行計画案に関して、特に確認個体数が増加している知床岬地区での対策方針を中心に議論した。主な意見・指摘事項は以下のとおり。

#### ■2023（令和 5）シカ年度実行計画案について

- ・昨年度行われた航空カウント調査において、知床岬地区の確認頭数が引き続き高止まり※したことを受けて、この数年は十分な捕獲成果が上げられていない現状に照らし、大規模仕切柵の設置など試行的な捕獲手法についてはより具体的な実現可能性も検討しつつ、可能な限り捕獲を継続する。

※2020 シカ年度：58.2 頭/km<sup>2</sup>、2021 シカ年度：78.64 頭/km<sup>2</sup>、2022 シカ年度：63.47 頭/km<sup>2</sup>

- ・幌別－岩尾別地区並びにルサー相泊地区については、捕獲が順調に進んでいるため、より持続的な手法を検討しつつ、当面は知床岬により重点を置く。

#### ■知床世界自然遺産地域管理計画の見直し検討について

##### 【全般】

- ・「保全管理」と「保護管理」が混在しているため、整理すること。

##### 【3.知床世界自然遺産の価値】

- ・遺産のクライテリアだけではなく、人間との関わりにより遺産価値が維持されてきたことや自然景観なども含めて、記述が必要ではないか。

#### ■第 2 期長期モニタリング計画に基づく総合評価手法について

- ・各評価項目に紐付けられたモニタリング項目の評価基準について妥当かどうかを再チェックしておくこと。

#### ■気候変動に対する順応的管理戦略について

- ・順応的管理など、ポイントとなる言葉は使い方（意味）を統一しておくこと。
- ・どういった方策をどんな時に備えて用意するかということを戦略的に考える必要がある。それを次回保全状況報告（2024 年 12 月）までに完成させるのは困難であり、まずは一次案を提出した上で、引き続き検討しながら完成に近づけていくのではないか。
- ・気候変動に対するインパクトのシナリオを検討することが重要である。各 WG/AP での確認を得つつシナリオを作成し、そのシナリオに沿ったリスク評価が行える観測・モニタリングの対応付けを検討する。その上で、どの部分是对処可能で、どの部分是不可能なのかを明らかにしていく。
- ・気候変動の影響は生態系ごとに違うため、知床のローカルモデルをつくる必要があるが、知床での気象観測の歴史は浅いため、知床半島での気象庁の既存データ等を活用し、解析に用いることが考えられる。

### 3. 令和 5 年度エゾシカ WG に関する今後の予定

#### ◆第 2 回エゾシカ WG

令和 5 年 11 月～12 月（予定）

以上



## ヒグマワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 1. 令和 5 年度ヒグマ WG の開催概要

- ・ 第 1 回会議 令和 5 年 8 月 8 日（火）斜里町産業会館

### 2. 主な議事内容

知床半島ヒグマ管理計画に基づく管理の進捗状況やヒグマの出没状況を踏まえ、今後の方策や留意点を中心に議論した。主な意見・指摘事項は以下のとおり。

#### ■第 2 期知床半島ヒグマ管理計画に基づく管理について

- ・ 今年度は問題個体の出没がハイペースで進んでおり、年度途中であるが目標①「メスヒグマの人為的死亡総数の単年目安（18 頭）」を超える 21 頭（※）が捕殺されている。特に斜里側の農地周辺での捕殺が多いため、駆除と防除の両面での取組をさらに促進すべき。  
(※8 月 18 日時点の速報値で 24 頭)
- ・ 2021 年度に引き続き、2022 年度も利用者に起因する危険事例の発生件数が年間目標値を上回った。危険事例を減らすための取り組みの効果をしっかり検証すべきである。
- ・ 特定管理地（公園内車道沿線）におけるヒグマ出没時の対応の試験的変更について、（ヒグマを忌避学習付けすることが困難であることや、道路沿いにおける銃器の使用が困難な状況になったことから、）ヒグマを人から離す「追い払い」から人がヒグマに近づかないようにする「情報発信と注意喚起」に重点を置く対策を 2019 年度より試行的に実施しており、2022 年度より本運用することが報告された。しかし危険事例は引き続き目標値を上回って発生していることから、より丁寧に対策変更の効果を評価すること、可能な範囲での「追い払い」も継続実施すべきこと、「情報発信と注意喚起」の対象が適切かどうかをきちんと検討すべきことなどの意見があった。
- ・ 目標②「ヒグマによる人身事故」において、知床岬で発生したシカ捕獲従事者の事故をどのように扱うかについて意見を求めた。目標②の事故件数にカウントするか否かについて意見が分かれたため、全道の狩猟統計の整理等を踏まえ、扱いを後日整理していくこととした。
- ・ 出没時の迅速かつ円滑な対処につなげるため、各地域の警察・消防・自治体が連携し、アクションプランの方策に位置づけられている図上演習や実地研修等を合同で実施していくことが重要である。
- ・ 観光船事故による社会へのインパクトを考えると、至近距離でのヒグマの撮影など人間側の問題行動を原因とした危険事例が引き続き発生している状況では、人身事故の発生が懸念される。危機感をもって対応策を考え、事故の発生を防止していくべき。
- ・ 意図的に問題行動を起こす人々を対象とした普及啓発をさらに強化していく必要がある。
- ・ そのためには、リザルトチェーンなどを活用して管理目標の達成状況とアクションプランの実行状況との関係を再検討し、目標達成に必要な適切なアクションがとられているか、優先順位に問題ないかなど詳細な検討を行い、アクションプランに反映していく必要がある。

## ■遺産管理計画の見直しについて

### 【全般】

- ・ 現行計画による管理の中で課題として残されているものは、次の管理計画の中で解決していくような具体的な記述が求められる。

### 【目次】

- ・ 「6-2 基本方針」については、大区分として陸域と海域を分けて記載することが適切。(2) 野生動物、(3) 植物群落、(4) 外来種を「陸域」でまとめることで、「(4) 海域」や「(5) 海域と陸域の相互関係」との対比が明確になる。

### 【6.管理の基本方針 6-2 基本方針 (2) 野生動物の保全管理 ②ヒグマ】

- ・ 現行ではヒグマ管理計画の7つの基本方針が記載されているが、何を目指している方針なのかが不明瞭である。ヒグマ管理計画の「2. 計画の目的」を記載する必要がある。

### 【6.管理の基本方針 6-2 基本方針 (7) 自然の適正な利用】

- ・ ヒグマへの接近等を規制する改正公園法の内容を明記すべき。

## ■第2期長期モニタリング計画に基づく総合評価手法について

- ・ 事務局案に対して、特段の意見なし。

## ■ヒグマに対する自然公園法 37 条規制について

- ・ 8月10日から実施される本件のパブリックコメントに当たり、パブリックコメント自体が広報になるため、積極的な報道発表等を展開してもらいたい。
- ・ 道内では大雪山国立公園をはじめとしてヒグマに関する同様の課題を抱えているため、知床を先駆けとして水平展開を図ることが重要である。

## 3. 令和5年度ヒグマWGに関する今後の予定

### ◆第2回ヒグマWG

令和5年12月(予定)

以上

## 海域ワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 1 開催状況

令和5年（2023年）7月25日（火）第1回ワーキンググループ開催（斜里町）

〈第1回海域ワーキンググループの主な内容〉

#### ◇ 長期モニタリング項目評価調書（案）について

第2期長期モニタリング計画において海域ワーキンググループが担当するモニタリング項目について、調書の記載内容の検討及び最新のデータに基づく評価を行った。

#### ◇ 知床世界自然遺産地域管理計画 見直し検討について

※別添参照

#### ◇ 第2期長期モニタリング計画に基づく総合評価について

※別添参照

### 2 今後の予定

#### ◇ 第2回海域ワーキンググループ（1月～2月札幌市）

- ・長期モニタリング項目評価調書（案）について
- ・第4期知床世界自然遺産地域多利用型統合的・海域管理計画（英語版）について ほか



## 河川工作物アドバイザー会議の経過報告・今後の予定

### ○ 令和5年度（2023年度）河川工作物 AP 会議の開催状況

第1回会議（令和5年7月18日（火）～7月19日（水）羅臼町・斜里町）

7月18日（火）羅臼町

- ・現地検討：ルサ川の河川改修及び園地整備計画、オッカバケ川のダム改良及び橋梁補修、サシルイ川の改良
- ・室内会議：知床世界自然遺産地域管理計画の見直し、長期モニタリング計画に基づく総合評価、ルシャ川・イワウベツ川・オッカバケ川のダム改良、ルサ川河川改修、朔北橋（オッカバケ川）橋梁補修、羅臼川・盤ノ川の状況

7月19日（水）斜里町

- ・現地検討：ルシャ川における治山ダムの改良、河床路の状況

#### 1 知床世界自然遺産地域管理計画の見直しについて

遺産管理計画の見直し案について、内容の確認を行った。

#### 2 第2期長期モニタリングについて

第2期長期モニタリング計画に基づく総合評価について、評価手法等の確認を行った。

#### 3 河川工作物について

##### (1) ルシャ川ダム改良

ダム改良工事の進捗状況及び開削による河道整理とサケ（シロザケ）の産卵床数等調査実施計画について報告した。

##### (2) イワウベツ川ダム改良

令和4年度の豪雨の影響により延期となっていた7号ダムの改良について、工事概要と工程について確認し今後の対応について検討を行った。

##### (3) オッカバケ川ダム改良

2号ダムの改良後のモニタリング状況と今後の1号ダム改良の切下げの工程について報告した。

##### (4) ルサ川河川改修

ルサ地区園地整備計画の概要を踏まえ、河口部における河川改修について状況を確認し検討を行った。

##### (5) 朔北橋（オッカバケ川）橋梁補修

道道知床公園羅臼線朔北橋の橋梁補修について、洗掘対策等の議論、検討を行った。

##### (6) 羅臼川の状況

5号床止工下流の状況報告と、今後予定する各調査、袋型根固めメンテナンス及び帯工剥離流対策について検討した。

##### (7) イワウベツ川での河川環境の改善

しれとこ 100 平方メートル運動における盤ノ川簡易魚道の現状と魚類調査の進捗状況を報告した。

##### (8) サシルイ川ダム改良

昨年度実施した魚道の再改良（石組み魚道の設置）について、現在の状況を現地確認した。

##### (9) ルシャ川河床路の状況

モニタリングを実施している河床路の状況について現地確認した。

#### 4 今後の予定

第2回河川工作物アドバイザー会議を令和6年1月に札幌市で開催する予定。



## 適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 1. 令和5年度適正利用・エコツーリズム WG の開催概要

- ・第1回会議 令和5年7月19日（水）斜里町産業会館

### 2. 主な議事内容

遺産管理計画の見直しに関して、適正利用に関する項目を中心に議論した。また、適正利用・エコツーリズム検討会議の進め方についても意見交換を行った。主な意見・指摘事項は以下のとおり。

#### ■遺産管理計画の見直しについて

##### 【全般】

- ・課題がある以上、見直しの方向性は課題解決を志向した記述とするべき。

##### 【2.管理計画の基本的事項（1）管理計画の目的】

- ・「特異な価値」という表現は、「普遍的な価値」がふさわしい。IUCN の勧告にも「特異」の用語はなく、英訳された場合に違和感を与える可能性がある。

##### 【2.管理計画の基本的事項（2）管理計画の対象範囲】

- ・管理計画の対象範囲は遺産地域だが必要に応じて周辺地域も含む、と読めるが曖昧な印象を受ける。特に例示された OECM は管理体制などの仕組みが異なるため、別項目に移動した方が良い。

##### 【3.知床世界自然遺産の価値】

- ・知床はクライテリア以外にも重要な価値を有している。自然景観や文化的価値なども追記してはどうか。

##### 【6.管理の基本方針 6-2 基本方針（7）自然の適正な利用】

###### <①利用の適正化>

- ・現状の地区区分（A 地区、B 地区）を堅持するが、地域から提案のあった9つのゾーニングはエコツーリズム戦略などの関連計画にて検討整理する。

###### <⑤海域のレクリエーション利用>

- ・さまざまな課題が挙がっている中、従前と同様の利用の心得などに基づく対応だけで解決できるのか疑問。国立公園の管理計画も踏まえて、整理することが重要である。

###### <⑦安全で安心な利用の推進>

- ・観光船のことだけでなく、各種ツアー等のアクティビティのほか、ヒグマへの対策も含め、安全に関する事項は本項目に統合して記載すべき。
- ・特に、すべてのツアーや利用でヒグマに対する危険の回避に最優先で取り組むという考え方を明記することが重要である。
- ・安全は、さまざまな対策や具体的で科学的な取組みとして記載すべき。安心は、感情や信頼感のようなもので、その前提として安全がある。両者を書き分けることが必要。

###### <①～⑦の階層構造について>

- ・階層レベルが同一ではなく、適正な利用に当たっての上位レベルの内容と個別具体的内容

が混在しているため、項目立てを再整理する必要がある。

**【6.管理の基本方針 6-2 基本方針(8)長期モニタリング及び総合評価に基づく順応的管理】**

- ・モニタリング結果をフィードバックし、管理の改善に繋げることもしっかりと記述すべき。

**■第2期長期モニタリング計画に基づく総合評価手法について**

- ・事務局案に対して、特段の意見なし。

**■適正利用・エコツーリズム検討会議の進め方について**

- ・エコツーリズム戦略に基づく利用の提案制度は、地域が主体的にプランを作り、専門家や行政と一緒に議論し実現していくという素晴らしい制度であるが、近年新たな提案がない。それぞれが、今以上に対等な立場でコミュニケーションを図り、地域の事業者が世界自然遺産等の利用方針に合致するような提案ができるように協働していく必要がある。
- ・その際、専門家はそれぞれの専門分野から最新の話題や懸念していること、関心のあることを伝えること、地域側は現場で起きていることを伝えるといった意見交換の時間を十分にとり、議論を深めていく。
- ・今後、遺産管理計画の見直し検討と整合を図りつつ、上記やゾーニングの検討、新たに制度化された自然体験活動促進計画も考慮しながら、エコツーリズム戦略の見直しを行っていく。

**3. 令和5年度適正利用・エコツーリズムWGに関する今後の予定**

**◆第2回適正利用・エコツーリズムWG**

令和6年2月(予定)

以上

遺産管理計画の見直し 及び 第2期長期モニタリング計画の総合評価手法に係る  
各WG/APのご意見まとめ

■遺産管理計画の見直しについて

|                | 主なご意見  |
|----------------|--|
| 全般             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行計画による管理の中で課題として残されているものは、次の管理計画の中で解決していくような具体的な記述が求められる。【ヒグマWG】</li> <li>・課題がある以上、見直しの方向性は課題解決を志向した記述とすべき。【エコツアーWG意見】</li> <li>・「保全管理」と「保護管理」が混在しているため、整理すること。【エゾシカWG】</li> <li>・「シロザケ」という通称はすべて削除し、公式な学术论文で標準和名を用いられる「サケ」に統一する。用語集で、これまでシロザケと表記していたものは、標準和名であるサケを用いることにしたという説明を加える。【河川AP意見】</li> </ul>  |
| 1. はじめに        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「海氷下のアイスアルジー（氷に付着した藻類）」は正確には「海氷中や海氷下部のアイスアルジー（海氷に付着した単細胞藻類）」が正しいので修正を提案する。（この他、p13「(5) 海域の保全管理と一次産業との両立」、p27「(1) 総説」、p28「ウ、海氷」、巻末2p3「食物網」に出てくる同単語も同様）【海域WG意見】</li> </ul>   |
| 2. 管理計画の基本的事項  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「特異な価値」という表現は、「普遍的な価値」がふさわしい。IUCNの勧告にも「特異」の用語はなく、英訳された場合に違和感を与える可能性がある。【エコツアーWG意見】</li> <li>・管理計画の対象範囲は遺産地域だが必要に応じて周辺地域も含む、と読めるが曖昧な印象を受ける。特に例示されたOECMは管理体制などの仕組みが異なるため、別項目に移動した方が良い。【エコツアーWG意見】</li> </ul>   |
| 3. 知床世界自然遺産の価値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺産のクライテリアだけではなく、人間との関わりにより遺産価値が維持されてきたことや自然景観なども含めて、記述が必要ではないか。【エゾシカWG意見】</li> <li>・知床はクライテリア以外にも重要な価値を有している。自然景観や文化的価値なども追記してはどうか。【エコツアーWG意見】</li> <li>・「2005年（平成17年）7月の世界遺産委員会において、以下により「クライテリアix（生態系）」及び「クライテリアx（生物多様性）」に合致するものとして世界自然遺産に登録された。」という記述について、これがなんのクライテリアなのか、本文では少し追記するとよいのでは。（たとえば用語集にもある「世界遺産リスト登録のクライテリア」でもよい）【海域WG意見】</li> <li>・「資産は、トド、ゴマフアザラシやシャチ、ミンククジラ、マッコウ</li> </ul> |

|                           |  |
|---------------------------|--|
|                           | クジラ、イシイルカ、希少なナガスクジラなど多くの海棲哺乳類の生息地である。」という記述について、クロツチクジラなどは遺産登録後に知床海域周辺で見つかったものが新種記載されているし、クラカケアザラシなども生息が確認されている。ここで記載する種の基準を定めた上で記載について検討してはどうか。 【海域 WG 意見】  |
| 4. 知床世界自然遺産の現状と課題         | ・「サケ科魚類の遡上・降海の促進」を「サケ科魚類の遡上・再生産の促進」に修正。(降海稚魚の調査を実施しているが、それは再生産の状況を確認するための調査で、降海の促進と記載すると、降下魚のための魚道設置や河川工作物の改良を実施していると誤解するため) 【河川 AP 意見】  |
| 5. 保全管理の目標                | ・「⑩河川工作物により影響が低減される等」を「⑩河川工作物の改良により影響が低減される等」に修正。 【河川 AP 意見】   |
| 6. 管理の基本方針                | ・大区分として陸域と海域を分けて記載することが適切。<br>(2) 野生動物、(3) 植物群落、(4) 外来種を「陸域」でまとめることで、「(4) 海域」や「(5) 海域と陸域の相互関係」との対比が明確になる) 【ヒグマ WG】   |
| 6-2 基本方針<br>(2) 野生動物の保全管理 | <②ヒグマ><br>・現行ではヒグマ管理計画の7つの基本方針が記載されているが、何を指している方針なのかが不明瞭である。ヒグマ管理計画の「2. 計画の目的」を記載する必要がある。 【ヒグマ WG】   |
| (5) 海域の保全管理と一次産業との両立      | ・「産卵のために遡上するシロザケ、カラフトマスは」を「産卵のために遡上するサケ類は」に修正。(近年はサクラマスの遡上数が増えていることもあり、サケ、カラフトマス、サクラマスを含めて考えた方が良いため) 【河川 AP 意見】<br>・ウォッチング船をはじめとする観光業への影響に配慮した記述を追加してはどうか。 【海域 WG 意見】  |
| (6) 海域と陸域の相互関係の保全         | ・「産卵床数の増加が見られる効果」を「産卵床数の増加といった効果」に修正。 【河川 AP 意見】<br>・「資源保護等のため、採捕の禁止措置」を「資源保護等のため、親魚の採捕の禁止措置」に修正。 【河川 AP 意見】   |
| (7) 自然の適正な利用              | <①利用の適正化><br>・現状の地区区分(A地区、B地区)を堅持するが、地域から提案のあった9つのゾーニングはエコツーリズム戦略などの関連計画にて検討整理する。<br><⑤海域のレクリエーション利用><br>・さまざまな課題が挙がっている中、従前と同様の利用の心得などに基づく対応だけで解決できるのか疑問。国立公園の管理計画も踏まえて、整理することが重要である。<br><⑦安全で安心な利用の推進><br>・観光船のことだけでなく、各種ツアー等のアクティビティのほか、ヒグマへの対策も含め、安全に関する事項は本項目に統合して記載す |

|                             |  |
|-----------------------------|--|
|                             | <p>べき。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に、すべてのツアーや利用でヒグマに対する危険の回避に最優先で取り組むという考え方を明記することが重要である。</li> <li>・安全は、さまざまな対策や具体的で科学的な取組みとして記載すべき。安心は、感情や信頼感のようなもので、その前提として安全がある。両者を書き分けることが必要。</li> </ul> <p>&lt;①～⑦の階層構造について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・階層レベルが同一ではなく、適正な利用に当たっての上位レベルの内容と個別具体的内容が混在しているため、項目立てを再整理する必要がある。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【以上、すべてエコツアーWGの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒグマへの接近等を規制する改正公園法の内容を明記すべき。 【ヒグマWG】</li> </ul> |
| (8) 長期モニタリング及び総合評価に基づく順応的管理 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング結果をフィードバックし、管理の改善に繋げることもしっかりと記述すべき。 【エコツアーWG意見】</li> </ul>   |
| 巻末1 遺産地域の概要                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「オ. 動物」にある「この他、爬虫類8種、両生類3種、昆虫類2,500種以上の生息が知床半島で報告されている。」という記述について、海産脊椎動物の種数を追記してはどうか(根拠となる論文については学術雑誌に間もなく掲載予定)。 【海域WG意見】</li> </ul>   |
| 巻末2 用語集                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知床半島に生息する在来種のサケ科魚類(salmonids)は、「サケ」、「カラフトマス」、「サクラマス」、「オシヨロコマ」の4種、外来種のサケ科魚類は「ニジマス」が該当する旨、修正。 【河川AP意見】</li> <li>・サケ類(Pacific salmon)は、サケ属魚類である「サケ(chum salmon)」、「カラフトマス(pink salmon)」、「サクラマス(masu salmon)」の3種のことをさす。用語集で「サケ類」の説明を加える。 【河川AP意見】</li> </ul>  |
| 巻末4 主な保護制度及び関連計画等について       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・順応的管理について、もうすこし具体的に「どのモニタリング項目に変化があったとき、どの法律あるいは計画等にもとづいて、どの施策で適応していくのか」を整理する表があるとよい。例えば巻末4の左側の表に列をもう一つ追加しそこにモニタリング項目を追記してもよい。なお巻末4の表には、水産資源管理についての記載があった方がよい。 【海域WG意見】</li> </ul>   |

(注)「河川工作物AP」は「河川AP」、「適正利用・エコツーリズムWG」は「エコツアーWG」と表記

■第2期長期モニタリング計画の総合評価手法について

|                         | 主なご意見   |
|-------------------------|---|
| 全般                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>各評価項目に紐付けられたモニタリング項目の評価基準について妥当かどうかを再チェックしておくこと。 【エゾシカ WG】</li> </ul>  |
| 評価基準への「適合」「非適合」について     | <ul style="list-style-type: none"> <li>魚類が川に入るには、海の状況等でも個体数の変動も大きいので、それが緑色（評価基準に適合）だったからといって、必ずしも河川工作物の影響を受けているかどうか。要は、背景として多い状態から改善するのか少なくなったものが改善するのか、ということの判断が難しい。 【河川 AP 意見】</li> </ul>   |
| モニタリング項目の評価結果の“数値化”について | <ul style="list-style-type: none"> <li>知床全体で水温が上がっているのではないかと、それが気温によっているのか・河川工作物等によって上がっているか等、地球レベルで起こっていることを管理上の評価は基本難しいだろうということで、結果として水温やオショロコマの問題等、前回の評価では、その辺で評価が下がっており、努力に見合った形の評価が出来ないのでとの意見を踏まえた、今回の評価方法であると思う。 【河川 AP 意見】</li> </ul>  |
| 5段階評価について               | <ul style="list-style-type: none"> <li>評価基準への適合について、「適合」と「横這い」を一つの評価値「良好：5」にする根拠というのはどういうことか。</li> <li>河川工作物に関して言えば、その改良工事等を経てモニタリングを行い、その工事前と比べて良くなったかどうかを評価することになるが、それが前と変わらなくても、良くなっていても同じ評価というカテゴリーだとあまり意味はないのかなという気もするので、不適合な状況から河川工作物改良で良くなったという場合はおそらく赤色から緑色に移ると思うので、その違いがあるというのは非常に大事だとは思う。 【河川 AP 意見】</li> </ul> |
| その他                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>評価項目のB「海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されているか」について、ここに例えば「ケイマフリ、ウミネコ、オオセグロカモメ」とか書いてあるが、これが他の評価項目のところにもかなり使われている。あと、管理計画を見るとこの観点がほとんど書かれていない気がするので、どちらかというとサケ中心の世界の話のような感じがしていて、ここに違和感・齟齬を感じるが。 【河川 AP 意見】</li> </ul>  |

(注)「河川工作物 AP」は「河川 AP」と表記